

上海における岐阜県の地域プロモーション

人口約 200 万人、日本のほぼ中央部に位置する岐阜県は、標高 3,000m級の北アルプスを望む北部飛騨地域と濃尾平野がゆったりと広がる南部美濃地域からなり、日本有数の清らかな河川が流れています。変化に富んだ雄大な自然風景、白川郷や飛騨高山などの心やすらぐ街の風情、陶磁器、刃物、和紙といった伝統工芸、地芝居（地歌舞伎）に代表される伝統文化は岐阜県を特徴づける地域資源となっています。岐阜県は、これら地域資源の源を「水」ととらえて、「清流の国」を岐阜のブランドとし、そのブランドPRに力を注ぐとともに、県内への誘客促進などに取り組んでいます。

この岐阜県が、上海万博会場内において「岐阜県の日」と銘打ったイベントを開催し、中国に対する岐阜ブランドのアピールを行いました。併せて、上海市内の百貨店において「岐阜県観光物産展」を開催し、岐阜県の観光紹介と物産販売を行いました。

10月24日と25日の2日間にわたり、これら上海における岐阜県PRイベントを取材しましたので、その様子をご紹介します。

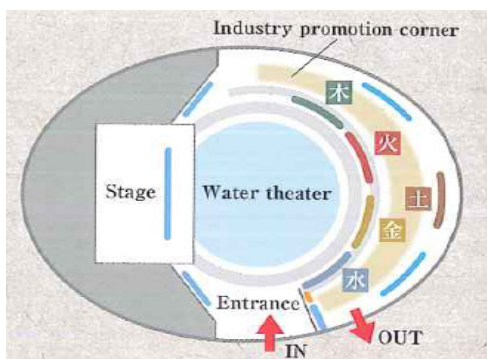
■ 上海万博における「岐阜県の日」のイベント

10月23日から26日にかけて、上海万博の日本館イベントステージ（約385㎡）にて、「岐阜県の日」のイベントが開催されました。

屋内イベント会場は、水劇場（Water Theater）と名付けられ、ステージスペースと観光・物産展示スペースが設営されていました（※下記会場平面図参照）。

ステージスペースでは、イベント開催期間中毎日、30分程度の舞台公演が7～9回上演されました。舞台公演の中心の1つは、GONNA（ガナ）という和太鼓とマリンバのアンサンブルグループの演奏でした。その演奏は、岐阜県の「四季」「歴史」「自然」「人」「水」をタイトルとする5つの楽曲からなり、それぞれの楽曲は、和太鼓の波にマリンバの響きが乗り、マリンバのメロディーに和太鼓がアクセントをつけながら、タイトルのイメージを音で表現する迫力あるものでした。GONNAのプロデューサーが岐阜県在住である縁もあり、今回の出演が実現したとのことでした。

舞台公演のもう1つの中心は、県南東部の東濃地域の地芝居である東濃歌舞伎でした。地芝居とは、江戸時代以来、農村部で地元の素人が演じて楽しむ歌舞伎です。



<イベント会場「水劇場」の平面図>



<GONNA（ガナ）の演奏風景>

現在、地芝居の団体は全国で 180 余りあるとされる中、岐阜県には全国最多の 27 団体が活動しており、地芝居は岐阜県を代表する文化資源になっています。万博の会場では、五人男が岐阜県各地の観光地や地場産品を紹介し大見得を切る内容の「岐阜自慢五人男」などが上演されました。

さらに、このステージでは、美濃焼の陶芸実演、岐阜県及び県内の市による PR プレゼンテーションも行われました。10 月 23 日のオープニングセレモニーでは古田岐阜県知事が出席し、岐阜県のトップセールスを行ったとのことでした。

ステージスペースにおける舞台公演の合間には、巨大スクリーンが下ろされ、水をテーマとした岐阜の美しい四季の映像が映し出されました。

一方、観光・物産展示スペースでは、岐阜県、岐阜市、大垣市、関市、中津川市の観光 PR ブースが設置されるとともに、「木」「火」「土」「金」「水」とテーマ分けされた物産展示ブースが設置されていました。「木」のブースには飛騨の木工製品などが、「火」のブースには美濃焼の陶磁器などが、「土」のブースには新しいライフスタイル提案ブースとしてアロマオイルや緑茶を成分とするボディソープなどユニークな生活・環境用品が、「金」のブースには関の刃物製品などが、そして「水」のブースには美濃和紙やミネラルウォーターの製品などがそれぞれ展示されていました。

イベント会場を訪れた 10 月 24 日は、小雨がまじるあいにくの天気でしたが、最後の非指定日（注）ということもあり、万博入場者数は約 75 万人にのびりました。GONNA や東濃歌舞伎の公演開始 30 分前には、岐阜県イベント会場前にも長蛇の列ができました。各公演の収容人数は 200 名程度であり、公演を鑑賞できない参列者も見られるほどでした。

イベント会場に入ると、巨大スクリーンの映像、舞台公演、観光・物産展示を鑑賞していく流れでしたが、全体を通じて、きれいな水に育まれた岐阜というブランドをアピールする主旨が十分に伝わってきました。

この「岐阜県の日」のイベントは万博に参加する 25 の都道府県の中で、フィナーレを飾るイベントでしたが、フィナーレを飾るに相応しい充実した内容でした。

（注） 2010 年 5 月 1 日から 10 月 31 日の万博開催期間中、5 月 1 日から 3 日（労働節の連休）、10 月 1 日から 7 日（国慶節の連休）、10 月 25 日から 31 日（閉幕前の 1 週間）は指定日とされており、指定日以外の日是非指定日とされている。指定日については、非指定日用の入場券である平日券での入場はできない。



<東濃歌舞伎の舞台風景>



<巨大スクリーンの映像>

■ 上海市内百貨店における「岐阜県観光物産展」

10月21日から27日にかけて、上海梅龍伊勢丹百貨の6階にて「岐阜県観光物産展」が開催されました。岐阜県は、中国において、これまで物産博覧会などへの出展には取り組んできましたが、独自で物産展を開催する試みは今回初めてとのことでした。

会場には、4m×4m程度の販売ブースが4つ設置され、岐阜県内23の事業者が200品目にのぼる商品を出展販売していました。1つめのブースには調理用品、刃物、ハサミ、陶器などが、2つめのブースには浄水器やタオルをはじめとする生活用品やキムチ、漬物などが、3つめのブースには米を原料とする各種乾麺、水、お酒などが、4つめのブースには各種スイーツやりんごなどがそれぞれ出展販売されていました。これら物産販売ブースのほか、観光PRコーナーも設けられていました。

会場には10月24日夕刻と25日午前の2回訪れましたが、いずれも多くの来客で賑わっていました。

会場の岐阜県担当者に話を伺ったところ、条件面での折り合いによりこの上海梅龍伊勢丹百貨で開催することになったとのこと。「6階での開催であり、集客に不安はあったが、伊勢丹側が積極的にPRを行うとともに、岐阜県としても1階の百貨店入口でティッシュを配布し、6階の会場に持参した者はもれなく景品抽選ができる工夫をしていることもあり、想定以上の数に来場いただいている」とのことでした。

今回は、マーケットリサーチが主眼であり、出展商品の中には価格が低く抑えられているものもありました。全体的な売上は順調とのこと、食料品の一部には当初運んできた数量が早々に売り切れ、急遽日本に追加発注されたものもありました。岐阜県の担当者からは、「今回のイベントを通じて大きな手ごたえを感じている。」との感想が伝えられました。

なお、古田岐阜県知事も、10月24日に当会場を訪れ、岐阜県のトップセールスを行いました。



<観光物産展会場風景>



<飛騨りんご販売ブース>